

令和 2 年度使用小学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 音 楽

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	音楽
----	----

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
教 出	1 7	音楽 1 0 1 2 0 1 3 0 1 4 0 1 5 0 1 6 0 1	小学音楽 おんがくのおくりもの 1 音楽のおくりもの 2 3 4 5 6	・低学年はA B判、中学年以降はA 4変形判で楽譜は大きく見やすい。3番までである歌詞は2番を太字にしており、行間、字間も適切で見やすい。 ・3年以上の歌唱共通教材は折込みを使用したワイドな紙面で、歌の世界を想起させやすい写真を掲載している。 ・歌唱共通教材の楽譜は、他の情報を整理して1ページに収める等、紙面の構成を工夫している。 ・学習のめあてを見開きごとに明示し、重要な言葉は色を変えて表記している。 ・「まなびナビ」を設定し、児童が見通しをもって主体的に学習を進める手立てを示している。 ・「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」として示し、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、思考・判断しながら、表現を深めていけるよう工夫している。 ・4年以上の歌唱共通教材等では、強弱記号等の記譜を控え、児童が曲想を工夫して表現できるよう配慮している。 ・「まなびリンク」を設定し、発展的学習活動が行えるよう工夫している。 ・3年以上では巻末に「音楽を表すいろいろな言葉」を掲載し、言語活動を充実させる効果が期待できる。 ・6年の音楽づくりでは、小学校での学びのまとめとして、フレーズ、和音、音階等、「音楽のもと」として学んだ知識をいかして、即興的に表現できるよう工夫している。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
教 芸	2 7	音楽 1 0 2 2 0 2 3 0 2 4 0 2 5 0 2 6 0 2	小学生のおんがく 小学生の音楽	1 2 3 4 5 6

- ・全学年大きさがＡＢ判に統一され、紙面の大きさは適切である。
- ・巻頭に「学びの地図」を示すとともに、各ページには、題材のねらい、学習目標、活動内容を記載しており、児童が見通しを持って学習できるよう工夫している。
- ・防災に関する内容として、６年で「しあわせ運べるように」「あすという日が」を掲載している。
- ・兵庫県に関連する作詞、作曲者の曲を多く取り上げている。
- ・補助教材では、児童の興味・関心を広げる曲を多数掲載している。
- ・６年の特集「音楽が人と人をつなぐ」「音の働きや役割について考えよう」では、音楽で生活を豊かにする心を育むよう工夫している。
- ・音楽づくりでは打楽器アンサンブルや旋律づくりなど低学年から系統的な指導ができるよう配列されているが、さらに高い到達レベルを目指す児童への対応には工夫を要する。
- ・ＱＲコードの構成がわかりやすく、授業での効果的な活用が期待できる。
- ・音楽を形づくっている要素を各ページ下部に記載しているが、紙面のバランスを考えると児童に注目させるにはやや小さい。
- ・わらべうた、地域に伝わる伝統芸能等、児童の生活に即した教材を学年段階に応じて、幅広く掲載している。
- ・全学年で統一したキャラクターを登場させ、考える観点を例示しながら、児童の主體的・対話的な学びを引き出すよう工夫している。

教科用図書調査に関する報告書

音楽		観点別評価	「◎」優れている 「○」標準的 「△」やや劣る	
選定の観点	選定の視点		教出	教芸
学習指導要領との関連	1	学習指導要領に示されている音楽科の目標達成に結び付く内容になっているか。	○	○
	2	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。	◎	◎
	3	「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。	○	○
	4	言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。	○	○
内容	1	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽のよさや面白さ、美しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりすることができているか。	◎	○
	2	身の回りの音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いあるものにしようとする態度を育む配慮がなされているか。	○	◎
	3	表現及び鑑賞の活動を通して、「共通事項」を身に付けることができよう、配慮がなされているか。	◎	○
	4	曲想を感じ取って歌唱表現や器楽表現を工夫し自分の思いや意図をもって歌ったり、楽器を演奏したりする活動を支える知識や技能を身に付けることができているか。	○	○
	5	音楽づくりについては、様々な音とかかわり、音の面白さに気付いたり、その響きや組合せを楽しんだりしながら、様々な発想をもって音遊びをしたり、即興的に表現したりすることができているか。	◎	△
	6	鑑賞については、曲想や音楽の構造との関わり合いを感じ取ったり、楽曲の特徴や演奏のよさを見出したりすることができているか。	○	○
	7	和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習を通して、我が国や郷土の音楽に親しみ、そのよさを感じ取れるような工夫がなされているか。	○	◎
構成・分量	1	内容の量と学習時間が適切に配当されているか。	○	○
	2	児童の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。	○	○
表記・表現	1	表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。	◎	○
	2	文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。	◎	○
	3	ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮されているか。	◎	○